

乳児ボツリヌス症

Q：乳児にハチミツを与えてはいけないと聞きましたが、1歳以上なら大丈夫でしょうか？

A：生後1歳未満の乳児がボツリヌス芽胞の入ったハチミツを食べると乳児ボツリヌス症を起こすことがあります。1歳を過ぎると腸内の正常な大腸菌が増えてボツリヌス症を起こすことはなくなると言われています。

乳児ボツリヌス症

ボツリヌス菌は、芽胞(がほう)を形成し、この芽胞で汚染された食品を乳児が食べると、腸管内で発芽、増殖して、毒素を産生して乳児ボツリヌス症を発症することがあります。生後1歳未満の乳児は、腸内環境が成人とは異なり、腸管内でのボツリヌス菌の定着と増殖が起こりやすいとされています。このボツリヌス菌芽胞が入ったハチミツを成人が食べても、ボツリヌス菌は健康な成人の腸内では増えません。1歳を過ぎると腸内の正常な大腸菌が増えてボツリヌス菌が成長できないため、ボツリヌス症を起こすことはないといわれています。

乳児ボツリヌス症は、1976年に米国カリフォルニア州で発見されたボツリヌス菌による新しいタイプの疾病で、生後3週間～8ヵ月齢の乳児に発症し、潜伏期間が3～30日といわれています。

日本ではじめて乳児ボツリヌス症例が診断されたのは1986年で、その後ハチミツが原因と思われる乳児ボツリヌス症が続いたので1987年に厚生省(当時)が1歳未満にはハチミツを与えないようにという通知を出し、それ以降1989年の事例を最後にハチミツを食べたことに起因する発症例はありませんでした。しかし、2017年にハチミツを食べた乳児が乳児ボツリヌス症で死亡したことを受け、消費者庁や厚生労働省では「1歳未満の乳児にはハチミツを与えないで」と注意喚起しています。

ハチミツ摂取していない乳児ボツリヌス症の多くの事例では原因は明らかではなく、井戸水などの報告もあり、周囲の環境からといわれています。

症 状

症状は、便秘が数日間続き、全身の筋力低下、脱力状態、哺乳力の低下、泣き声が小さくなる、特に、顔面は無表情となり、首がすわらなくなったりします。眼瞼下垂、咽頭反射減弱などの脳神経麻痺から、頸部、体幹部、上下肢へ、弛緩性および対称性の麻痺、筋緊張低下が進み(floppy baby)、横隔膜に麻痺が及ぶと人工呼吸器の使用が必要となるケースもあります。ほとんどの場合、適切な治療により治癒しますが、まれに亡くなることもあります。

治 療

乳児では対症療法が行われ、乾燥ボツリヌスウマ抗毒素は使用しません。米国では、A型抗毒素およびB型抗毒素を含むヒトのグロブリン製剤も利用されています。呼吸管理等に伴う合併症がなければ、乳児ボツリヌス症の予後は良好で、米国では死亡率は1%未満です。日本では確認された36症例で2017年の事例がはじめての死亡例でした。

乳児ボツリヌス症では、乳児の腸内でボツリヌス菌がふえるため、乳児が回復したあとも、場合によっては数ヵ月間、便とともにボツリヌス菌が排泄されます。そのため、退院したあとも、他に1歳未満のこどもがいるようなところでは、オムツを交換するときにまわりを便で汚さないようにする必要があります。ボツリヌス菌は、芽胞というかたちでは、アルコールなどの消毒薬は無効なので、オムツ交換をしたあとは、石けんと流水でよく手を洗うなど注意が必要です。

ハチミツを与えるのは1歳を過ぎてから

赤ちゃんのお母さん・お父さんやお世話をする方へ

1. 1歳未満の赤ちゃんがハチミツを食べることによって乳児ボツリヌス症にかかることがあります。
2. ハチミツは1歳未満の赤ちゃんにリスクが高い食品です。
3. ボツリヌス菌は熱に強いので、通常の加熱や調理では死にません。1歳未満の赤ちゃんにハチミツやハチミツ入りの飲料・お菓子などの食品は与えないようにしましょう。

(厚生労働省) 文献2)より

【 参考文献 】

- 1) 国立感染症研究所ホームページ：
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/7275-botulinum-intro.html>
- 2) 厚生労働省ホームページ：
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161461.html>
- 3) 食品安全委員会ファクトシート, ボツリヌス症, 2014
- 4) 調剤と情報, Vol.16, No.2, 2010